

This Page Is Inserted by IFW Operations
and is not a part of the Official Record

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images may include (but are not limited to):

- BLACK BORDERS
- TEXT CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- FADED TEXT
- ILLEGIBLE TEXT
- SKEWED/SLANTED IMAGES
- COLORED PHOTOS
- BLACK OR VERY BLACK AND WHITE DARK PHOTOS
- GRAY SCALE DOCUMENTS

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

**As rescanning documents *will not* correct images,
please do not report the images to the
Image Problem Mailbox.**

PAT-NO: JP406099775A
DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 06099775 A
TITLE: SLIDE ROTATION STRUCTURE FOR CONSOLE
LID
PUBN-DATE: April 12, 1994

INVENTOR-INFORMATION:
NAME
HAJIRI, MASAHIRO

ASSIGNEE-INFORMATION:
NAME INOAC CORP COUNTRY N/A

APPL-NO: JP04275394
APPL-DATE: September 18, 1992

INT-CL (IPC): B60R007/04, B60N002/46

US-CL-CURRENT: 296/37.14

ABSTRACT:

PURPOSE: To perform slide of a console lid over a console body by a given distance and to rotate the lid to a position above the console body.

CONSTITUTION: A console lid 10 is formed such that a reinforce 16 formed in a U-shape in a plane is mounted on a hinge 14 in which a guide groove 14a is formed. A longitudinally sliding lock bar 20 is disposed to the reinforce 16 through a guide rail 18. The lock bar has one end to which a stopper 24 is disposed and is normally engaged with a groove-form

engaging part 26a formed in
the inner surface of the lid 10. A reinforce 12 mounted on
the front of the
lock bar 20 is rotated and by disengaging the stopper pin
24 from the
groove-form engaging part 26a, the lid 10 is slid backward
and rotatable upward
along a guide groove 14a.

COPYRIGHT: (C)1994, JPO&Japio

(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平6-99775

(43)公開日 平成6年(1994)4月12日

(51) Int.Cl.⁵

識別記号 庁内整理番号

F I

技術表示箇所

B 60 R 7/04

C 7812-3D

B 60N 2/46

審査請求 未請求 請求項の数 1(全 9 頁)

(21)出題番号

特願平4-275394

(22)出願日

平成4年(1992)9月18日

(71)出願人 000119232

株式会社イノアックコーポレーション
愛知県名古屋市中村区名駅南2丁目13番
号

(72)發明者 羽尾 正博

愛知県安城市今池町3丁目1番36号 株式会社イノアックコーポレーション安城事業所内

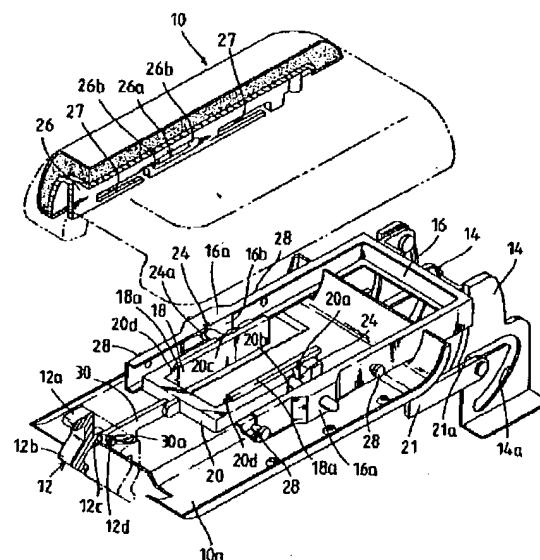
(74)代理人 奎理士 山森 嘉幾

(54)【発明の名称】 コンソールリッドのスライド回転構造

(57)【要約】

【目的】 コンソールリッドをコンソールボディに対して所要距離だけスラストさせると共に、該リッドをコンソールボディの上方に回動させるようにする。

【構成】 このコンソールリッド10は、図に示す如く、案内溝14aが設けられたヒンジ14に、平面コ字状のレインフォース16が取付けられる。このレインフォース16には、その長手方向に沿って摺動するロックバー20が、ガイドレール18を介して配設される。このロックバーには、その一端部にストッパピン24が配設されており、常には、前記リッド10の内側面に設けた溝状係合部26aに係合されている。そしてロックバー20の前面に取付けられたレバー12を回動させ、前記ストッパピン24を溝状係合部26aから離脱させることにより、リッド10を後方へスライドさせる共に、案内溝14aに沿って上方に回動させることができる。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 物品収納部(15)を内部に画成してなるコンソールボディ(11)と、前記物品収納部(15)の上方開口部に一端部において回動可能に取付けたコンソールリッド(10)と、このコンソールリッド(10)の他端部側に配設され、該リッド(10)を前記コンソールボディ(11)に対し解除自在に固定するレバー(12)とを備えた車両用のコンソールボックスにおいて、
 車両の運転席付近に位置して固定的に設けられ、前記コンソールリッド(10)の移動範囲を規制する案内溝(14a)を有する固定部材(14)と、
 前記固定部材(14)に一端部において回動自在に軸支され、前記コンソールリッド(10)を支持するコ字状の支持部材(16)と、
 前記支持部材(16)の所要部位に配設され、該支持部材(16)と交差する方向に進退可能な係止機構(24)と、
 前記支持部材(16)の左右両側面部に取付けられ、前記係止機構(24)の進退方向と並列的に位置するようになっている係止部材(28)と、
 前記支持部材(16)の長手方向に沿って取付けられ、該支持部材(16)に対し所要の間隙を有している案内部(18)と、
 前記案内部(18)および支持部材(16)の間に配設され、前記レバー(12)と接続して該案内部(18)に対し所要位置だけ移動される係合部材(20)と、
 前記コンソールリッド(10)の基部となる本体部材(26)に配設され、該コンソールリッド(10)を閉成した際に、前記係止機構(24)と係合してコンソールリッド(10)の移動領域を前方位置および後方位置に位置決めする係合部(26a)と、
 前記コンソールリッド(10)の外側面に取付けられ、これに突出形成した係合突片(21a)を前記固定部材(14)の案内溝(14a)に係合させてなる案内部材(21)とから構成され、
 前記コンソールリッド(10)に取付けた前記レバー(12)を回動させて、該レバー(12)と接続される前記係合部材(20)を所要方向に移動させることにより、前記コンソールリッド(10)に配設した係合部(26a)から前記係止機構(24)を離脱させ、
 該コンソールリッド(10)を前記コ字状の支持部材(16)に沿って、前記固定部材(14)の方向にスライドさせ、
 該コンソールリッド(10)を前記支持部材(16)と共に、前記コンソールボディ(11)の上方に回動させるようにしたことを特徴とするコンソールリッドのスライド回転構造。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】この発明は、車両用コンソールボックスの改良に関し、更に詳しくは、コンソールボックスの物品収納部を開放自在に閉成するコンソールリッド

を、手動操作により①後退側にスライドさせることによって、例えば該コンソールボディに設けた「カップホルダー」を使用可能とし、更に②該コンソールリッドを前記コンソールボックスの上方に回動させることにより、物品収納部を開放させ得るよう構成したコンソールリッドのスライド回転構造に関するものである。

【0002】

【従来技術】車両用の内装品として運転席付近に配設され、主として車内で使用する小物の収納部が設けられたコンソールボックスが広く使用されている。すなわち図12に示すように、コンソールボックス(以下「ボックス」と云う)13には、上部にアームレストを兼用するコンソールリッド10が配設され、このコンソールリッド10により該ボックス13に画設した物品収納部15を開閉自在に閉成し得るようになっている。前記コンソールリッド10は、これを形成する下側の支持部材(インナー)10aの一端部が、車両の床部等に固定されるヒンジ等の金具に軸支され、これを前記コンソールボディ11に対し所要角度だけ回動させることにより、必要に応じて小物等を物品収納部15から出し入れし得るものである。なお該コンソールリッド10は、図に示すように、回動側端部に取付けられたレバー12を手動操作で回動させることで、本体となるコンソールボディ11との係合を解除させる構造となっている。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】車両高級化の指向に伴い、前記コンソールボディ11に所謂「カップホルダー」を一体成形したものが知られている。この「カップホルダー」は、運転席に隣接する変速切換え機構と前記ボックス13との間に、カップや缶容器を挿入載置させる円形溝として凹設されるもので、前記コンソールリッド11とは別体をなす蓋部材で常に閉成される。そして、該「カップホルダー」に飲料容器等を載置する場合には、この蓋部材を移動あるいは回動させることにより、該円形溝を外方に露出させよう構成されている。

【0004】コンソールボディ11と付帯的に配設した「カップホルダー」は、例えば車のドア内側に掛止させて取付けるタイプに比べて、カップ自体を手元に置きやすいために利便性が向上するものである。しかしこのタイプの「カップホルダー」は、前記コンソールボックス13とは別体として設けられるので、前述したようにコンソールリッド11と別体をなす蓋体を設けるのが一般的であった。なお、「カップホルダー」とボックス13とを共通的に閉成するようにした蓋体も提案されているが、この場合は、その蓋体が所謂シェード式で構成される。このため前記ボックス13内に、該蓋体の巻取り部が必要となり、結果的に該ボックス13のスペースが充分に確保されない欠点がある。またこの蓋体をシェード式にすると、アームレスト兼用の役目を果たすことができない、と云った別の難点も指摘される。

【0005】

【発明の目的】この発明は、前述した車両用のコンソールボックスに内在している前記欠点に鑑み、これを好適に解決するべく提案されたものであって、①第1操作で、コンソールリッドをコンソールボディに対し所要距離だけスライドさせて例えばカップホルダーを露出させ、②更に第2操作で、該コンソールリッドをコンソールボディの上方に回動させることにより、物品収納部を開放させ得るようにしたコンソールリッドのスライド回転構造を提供することを目的とする。

【0006】

【課題を解決するための手段】前記課題を克服し、所期の目的を達成するため、本発明に係るコンソールリッドのスライド回転構造は、物品収納部を内部に画成してなるコンソールボディと、前記物品収納部の上方開口部に一端部において回動可能に取付けたコンソールリッドと、このコンソールリッドの他端部側に配設され、該リッドを前記コンソールボディに対し解除自在に固定するレバーとを備えた車両用のコンソールボックスにおいて、車両の運転席付近に位置して固定的に設けられ、前記コンソールリッドの移動範囲を規制する案内溝を有する固定部材(ヒンジ)と、前記固定部材に一端部において回動自在に軸支され、前記コンソールリッドを支持するコ字状の支持部材(レインフォース)と、前記支持部材の所要部位に配設され、該支持部材と交差する方向に進退可能な係止機構(ストッパピン)と、前記支持部材の左右両側面部に取付けられ、前記係止機構の進退方向と並列的に位置するようになっている係止部材(ガイドピン)と、前記支持部材の長手方向に沿って取付けられ、該支持部材に対し所要の間隙を有している案内部(ガイドレール)と、前記案内部および支持部材の間に配設され、前記レバーと接続して該案内部に対し所要位置だけ移動される係止部材(ロックバー)と、前記コンソールリッドの基部となる本体部材(インサート)に配設され、該コンソールリッドを閉成した際に、前記係止機構と係合してコンソールリッドの移動領域を前方位置および後方位置に位置決めする係合部(係合溝)と、前記コンソールリッドの外側面に取付けられ、これに突出形成した係合突片を前記固定部材の案内溝に係合させてなる案内部材(ガイドブロック)とから構成され、前記コンソールリッドに取付けた前記レバーを回動させて、該レバーと接続される前記係止部材を所要方向に移動させることにより、前記コンソールリッドに配設した係合部から前記係止機構を離脱させ、該コンソールリッドを前記コ字状の支持部材に沿って、前記固定部材の方向にスライドさせ、該コンソールリッドを前記支持部材と共に、前記コンソールボディの上方に回動させるようにしたことを特徴とする。

【0007】

【実施例】次に、本発明に係るコンソールリッドのスラ

イド回転構造につき、好適な実施例を挙げて、添付図面を参照しながら以下説明する。図1は、本実施例に係るコンソールリッドを分解状態で示す概略斜視図、図2は、該コンソールリッドの内部構造を示す平面図である。なお、図1、2に関して説明した部材と同一の部材については、同一の符号で指示するに留める。

【0008】このコンソールリッド10は、図1に示すように、該コンソールリッド10の動作を規制するための案内溝14aが設けられた固定部材(以下「ヒンジ」と云う)14と、その一端部が該ヒンジ14に対して軸支され、コンソールリッド10と共に所要角度で回動し得る平面コ字状の支持部材(以下「レインフォース」と云う)16と、該レインフォース16との間に所要の間隙を設けた状態で、該レインフォース16の長手方向に沿って取付けられる案内部(以下「ガイドレール」と云う)18と、該ガイドレール18と前記レインフォース16との間に位置し、該ガイドレール18の内側面に当接した状態で所要距離だけ移動するよう配設された係合部材(以下「ロックバー」と云う)20とから基本的に構成されている。なお前記ヒンジ14の案内溝14aは、例えば図1に示す如く、所要幅に設定された溝として設けられる。すなわちこの案内溝14aは、水平方向に延在する部分と、該水平方向の後端からコンソールリッド10側に向かって円弧状に形成される部分とからなっている。そして前記の案内溝14aには、前記インナー10aに取付けた案内部材(以下「ガイドブロック」と云う)21の開放端部が近接し、この開放端部に配設された係合突片21aが該案内溝14aの一端部に臨んでいる。

【0009】このコンソールリッドのスライド回転構造では、図4および図5に示す如く、変速機レバーとコンソールリッド10との間に於けるコンソールボディ11上にカップホルダー(実施例では並列に2基)22が凹設されているものとする。そして、該コンソールリッド10をヒンジ14の方向に移動させることで、該カップホルダー22を外部に露出させ得るようになっている。また該位置にあるコンソールリッド10を、ヒンジ14を中心として回動させれば、コンソールボディ11と一体成形された前記物品収納部15を開放させ得る。このコンソールリッド10を構成する前記レインフォース16が、コンソールリッド10の長手方向に延在する部分には、図1および図2に示すように、開放端部に近接する位置に平面台形状に成形された段部16aが、該レインフォース16の外側方向に突出した状態で夫々設けられている。また該レインフォース16には、前記段部16aと対向する内側部に、該段部16aと略同一の幅寸法に設定された受け板16bが垂設されている。更に受け板16bと段部16aとの間には、レインフォース16と交差する方向に、後述の係止機構24が配設されている。

【0010】この係止機構(以下「ストッパピン」と云う)

24は、図に示すように、所要長さに寸法設定された棒材であって、コンソールリッド10の外側に指向する外側端部が断面半円弧状に成形されている。このストッパピン24の長手方向における略中央部分には、所要の幅でフランジ24aが一体成形されている。このフランジ24aと前記段部16aの内側面との間には、バネ等の弾性部材25が介装され、該ストッパピン24は、このバネ25が該フランジ24aを押圧することによって、常にコンソールリッド10の内側方向に付勢される。またストッパピン24の内側端部は、略垂直に成形され、後述する如く、ロックバー20(後述)に形成された四部20aに対し所要圧で当接している。更にストッパピン24の外側端部は、前記段部16aから所要高さだけ突出した状態で支持され、コンソールリッド10の本体部材26(以下「インサート」と云う)の内側面に設けた溝状係合部26a(後述)と係合可能になっている。

【0011】またレインフォース16には、前記段部16aを挟んだ長手方向に所要距離だけ離間した位置に、係止部材28が夫々固設されている。この係止部材(以下「ガイドピン」と云う)28は、図2に示すように、頭部に座面が形成されたピン部材であり、前記ストッパピン24と同一方向において、レインフォース16の左右両側面に夫々取付けられている。このガイドピン28は、コンソールリッド10における前記インサート26の長手方向に沿って設けられたガイド溝27に夫々係合し、後述するように、該コンソールリッド10をスライドさせる際の支持部材として機能する。なおこのガイド溝27は、図2に示す如く、前記ストッパピン24の係合部(以下「係合溝」と云う)26aを挟んでインサート26の前後位置に設けられたもので、この係合溝26aの両端部に形成される係合四部26b, 26b(後述)が相互に離間する幅よりも若干長くなる寸法に設定される。

【0012】更にレインフォース16の内側には、その長手方向に沿ってガイドレール18が設けられている。このガイドレール18は、図2および図3に示すように、断面略L字状に屈曲成形された部材で、一方の端部近傍が該レインフォース16の下端に固定されると共に、他端をレインフォース16から所要幅だけ離間した状態で取付けられる。またこのガイドレール18がレインフォース16と対向する垂直面には、上下の位置関係で断面鉤状をなす屈曲部18aが形成されている。

【0013】このガイドレール18と前記レインフォース16との間には、該ガイドレール18の内側面に当接した状態でロックバー20が配設されている。このロックバー20は、図1および図2に示す如く、平面コ字状に成形された断面矩形状の部材であり、ガイドレール18との当接部に設けられた突片20dを、断面鉤状に成形された前記屈曲部18aに嵌合させている。またこのロックバー20の開放端部近傍の外側面には、図に示すように、コンソールリッド10の内方に向かって前記四

部20aが切欠成形されている。この四部20aは、レインフォース16に介装された前記ストッパピン24の内側端部が前記受け板16bを通して当接する位置に設けられ、該ロックバー20の外側面から僅かに切欠かれる第1四部20bと、該第1四部20bよりも深く切欠かれる第2四部20cとから成っている。

【0014】なおコンソールリッド10を形成する前記インサート26が、レインフォース16に配設されたストッパピン24の外側端部と対向する位置には、前述したように、該ストッパピン24の係合溝26aが長手方向に沿って設けられている。この係合溝26aは、図2に示す如く、インサート26の略中央部に設けられた所要厚みを有する部分に、該ストッパピン24の直径寸法と略同一の幅寸法で設けられ、その両端部にはストッパピン24の外側端部が係合する断面円弧状の係合四部26b, 26bが夫々形成されている。この係合四部26b, 26bが設けられる位置は、後述するように、①コンソールリッド10のスライド前における位置と、②該コンソールリッド10をスライドさせて前記カップホルダ22を露出させる位置に設定されている。そしてこの係合四部26b, 26bに、ストッパピン24が夫々係合することによって、コンソールリッド10が前記レインフォース16に所謂「ロック」される。従ってロックバー20に設けられた第1四部20bは、この係合溝26aの係合四部26b, 26bにストッパピン24の外側端部を臨ませ得る深さに設定されている。また第2四部20cは、このストッパピン24の内側端部が落着した際に、外側端部が係合四部26b, 26bから離脱する深さ寸法に設定されている。

【0015】またロックバー20の前面に、リンクバー30を介して配設される前記レバー12は、図1に示すように、手指等を掛止する部分が第一掛止片12aと第二掛止片12bとに分岐形成されたものである。すなわち図2に示す如く、インナー10aに立設された該レバー12の支持片31とインサート26に設けられた支持片(図示せず)とによって回動自在に挾持される。この第一掛止片12aは、後述するように、コンソールリッド10を後方にスライドさせる際に掛止され、また第二掛止片12bは、該コンソールリッド10を前方に移動させる際に使用される。また図2に示す如く、レバー12と前記インナー10aに形成される前記支持片31との間に、捻りコイルバネ32が介装される。従って通常このレバー12は、このコイルバネ32によって、図の時計方向に付勢されている。

【0016】更に前記レバー12の背面には、前記ロックバー20に指向して連結片12cが突設されている。この連結片12cと接続される前記リンクバー30は、図1に示す如く、レバー12に近接する端部が、例えば三角形状に成形されたもので、その斜辺部分に沿って所要幅の長溝30aが形成されている。この長溝30aに

対し、前記レバー12の先端に突設された連結ピン12dを臨ませて支持することによって、リンクバー30とレバー12とが連結される。従って前記ロックバー20は、このレバー12を回動させることにより、該リンクバー30を介して前後方向に所要距離だけ移動できるよう構成されている。

【0017】

【実施例の作用】次に、この実施例に係るコンソールリッド10のスライド回転構造の作用につき説明する。コンソールリッド10は、図6に示すように、通常、前記レインフォース16を回動自在に支持する前記ヒンジ14から所要距離だけ前方に位置している。このとき前記インナー10aに取付けられた前記ガイドブロック21の係合突片21aは、ヒンジ本体に設けられた案内溝14aの前端に位置している。またコンソールリッド10の前端部に取付けられるレバー12は、前記捻りコイルバネ32により前記第一掛止片12aが前傾姿勢で待機していると共に、該レバー12の背面から突設される連結片12cが、リンクバー30を略水平位置に保持させた状態で静止している。

【0018】また図7に示すように、レインフォース16に配設されたストッパピン24の内側端部は、ロックバー20に形成された第1凹部20bに当接し、該ストッパピン24がコンソールリッド10の外側方向に押圧された状態にある。これによりストッパピン24の外側端部が、インサート26に設けられた前記係合溝26aの係合凹部26b, 26bにおける後側(ヒンジ側)に落着して、インサート26とレインフォース16とを移動不能にロックしている。またレインフォース16に固定されたガイドピン28は、インサート26のガイド溝27の後側(ヒンジ側)に近接位置している。

【0019】この状態から、図8に示す如く、前記レバー12の第一掛止片12aを手指等でヒンジ14の方向に回動させると、前記連結片12cと連結したリンクバー30が回動すると共に前方(レバー側)に移動する。またリンクバー30の移動により、ロックバー20が前方にスライドする。これにより、図9に示すように、該ロックバー20に設けられた第2凹部20cが、ストッパピン24の内側端部と対向する位置に到来する。このストッパピン24は、その略中央部に成形された前記フランジ24aが、同軸上に配設された前記バネ部材25により常にロックバー20の方向(コンソールリッドの内方)に付勢されている。このためレバー12の回動前に、ロックバー20の第1凹部20bに押圧されていた該ストッパピン24が、該バネ部材25によってコンソールリッドの内側方向に押圧され、フランジ24aがレインフォース16に設けられた前記受け板16bに当接すると共に、該ストッパピン24の内側端部が第2凹部20cに落着する。

【0020】これに伴い、ストッパピン24の外側端部

は、前記係合溝26aの係合凹部26b, 26bにおける後側(ヒンジ側)から離脱し、インサート26とレインフォース16とのロックが解除される。なおストッパピン24に設けられるフランジ24aの位置は、ストッパピン24が係合溝26aの係合凹部26b, 26bから離脱した際に、該ストッパピン24の外側端部が、係合溝26aの内側面と干渉しない位置まで離間し得る位置に設けられている。このためロックバー20に設けられた第2凹部20cの切欠幅は、このフランジ24aが前記受け板16bに当接し得る位置にまで後退し得る深さに設定される。

【0021】このレバー12を引いた状態にあるコンソールリッド10を、図10に示すように、レインフォース16に沿って後方(ヒンジ14の方向)にスライドさせる。このとき該コンソールリッド10は、前述した如く、前記インサート26に設けられたガイド溝27が、前記ガイドピン28によって支持されているため、レインフォース16に対し水平方向に速やかに案内される。このとき前記レバー12は、手指等で引いた状態にあり、その背面に設けられた前記連結片12cの連結ピン12dが、リンクバー30に設けられた長溝30aに沿って該コンソールリッド10と共に移動し得るよう構成されている。また前記インナー10aに取付けられたガイドブロック21は、前記案内溝14aに規制されつつ水平部後端に移動する。このコンソールリッド10の移動により、図11に示す如く、前記インサート26およびインナー10aが移動する。これに対し、前記レインフォース16およびロックバー20は、ヒンジ14に対して静止している。

【0022】またレバー12は、前述した如く、コンソールリッド10の内方に引かれた状態にある。このためストッパピン24は、図9で示したように、前記ロックバー20に設けた第2凹部20cに落着しており、このコンソールリッド10の移動によって、該ストッパピン24の外側端部が、インサート26に設けた係合溝26aにおける前方の係合凹部26bと対向する位置に到来する。そして該コンソールリッド10を後端位置までスライドさせた後、レバー12を離すことにより、前記捻りコイルバネ32の弾性力によって該レバー12が回動前の初期位置に回動すると共に、これと連結されたリンクバー30が上方に移動して、前記ロックバー20をヒンジ14方向に押圧する。また、このロックバー20の移動によって第2凹部20cに位置していたストッパピン24は、その内側端部が前記第2凹部20cの傾斜面に押圧されて前記第1凹部20bに乗り上げる。従って、該ストッパピン24の外側端部が係合溝26aの係合凹部26bに落着して、再びレインフォース16とインサート26がロックされる。

【0023】このように後端部に位置したコンソールリッド10は、図10の想像線に示す如く、レインフォー

ス16がヒンジ14に軸支された部分を中心に上方に回動し得る。このとき前記ガイドブロック21の係合突片21aは、ヒンジ14に設けた案内溝14aの円弧状部に沿って案内されるようになっている。なお、このレインフォース16とヒンジ14との軸支部分に、例えば適宜のラチェット機構を内蔵させることにより、コンソールリッド10の開放角度を、案内溝14aが形成された範囲内の任意な位置で停止し得るよう構成してもよい。

【0024】更に、開放状態にあるコンソールリッド10を移動前の位置に戻す場合は、該コンソールリッド10を水平位置にまで回動させる。このとき該コンソールリッド10は、前述した如く、ストッパピン24を介してレインフォース16にロックされている。従って、水平位置に戻したコンソールリッド10を前方にスライドさせる際に、前記レバー12を回動させて前記ストッパピン24とレインフォース16とのロックを解除させる。なおこのレバー12は、第一掛止片12aよりも下方に成形された第二掛止片12bに手指等を掛止させて回動させる。これにより、ロックを解除させた状態のままコンソールリッド10を前方にスライドさせ易いようになっている。そして該コンソールリッド10の移動後、レバー12を離すことにより、前述した如くロックバー20が後退すると共に、前記ストッパピン24が係合溝26aの係合凹部26bに係合してロックされる。

【0025】

【発明の効果】以上説明した如く、本発明に係るコンソールリッドのスライド回転構造は、該コンソールリッドをスライドさせた後、回転し得るよう構成してあるため、①第1操作で、コンソールリッドをコンソールボディに対し所要距離だけスライドさせて例えばカップホルダーを露出させ、②更に第2操作で、該コンソールリッドをコンソールボディの上方に回動させることにより、物品収納部を開放させ得るものである。従って、アームレストとしての機能を果たしながら、コンソールボディに形成した、例えばカップホルダーを開閉自在に閉成する蓋部材としての機能を果させることができる、等の利点を有する。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の好適な実施例に係るコンソールリッドのスライド回転構造を示す分解斜視図である。

【図2】本発明に係るコンソールリッドのスライド回転構造におけるコンソールリッドの内部構造を示す平断面

図である。

【図3】本発明に係るコンソールリッドのスライド回転構造におけるコンソールリッドの内部構造を示す縦断面図である。

【図4】本発明に係るコンソールリッドのスライド回転構造において、該コンソールリッドを後方にスライドさせた状態を示す外観斜視図である。

【図5】本発明に係るコンソールリッドのスライド回転構造において、該コンソールリッドを上方に回動させた状態を示す外観斜視図である。

【図6】本発明に係るコンソールリッドのスライド回転構造において、該コンソールリッドをスライドさせる前の状態を示す縦断面図である。

【図7】図6に示すコンソールリッドの内部状態を示す一部切欠横断面図である。

【図8】本発明に係るコンソールリッドのスライド回転構造において、該コンソールリッドに配設したレバーを回動させた状態を示す縦断面図である。

【図9】図8に示すコンソールリッドの内部状態を示す一部切欠横断面図である。

【図10】本発明に係るコンソールリッドのスライド回転構造において、該コンソールリッドを後方にスライドさせた状態を示す縦断面図である。

【図11】図10に示すコンソールリッドの内部状態を示す一部切欠横断面図である。

【図12】従来技術に係るコンソールリッドを示す外観斜視図である。

【符号の説明】

10 コンソールリッド

11 コンソールボディ

12 レバー

14 固定部材

14a 案内溝

16 支持部材

18 案内部

20 係合部材

21 案内部材

21a 係合突片

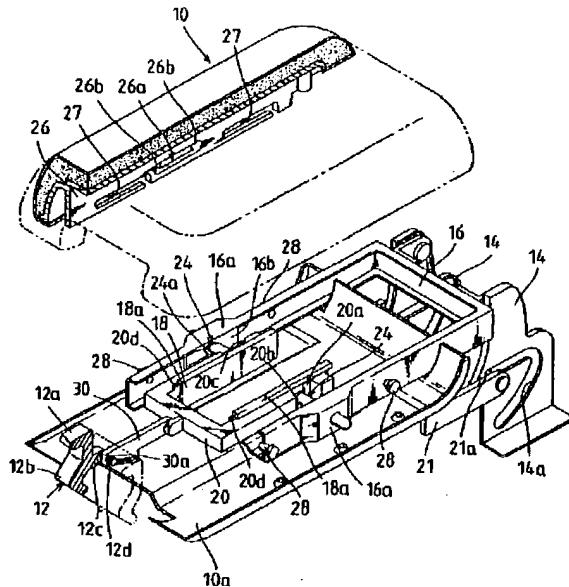
24 係止機構

26 本体部材

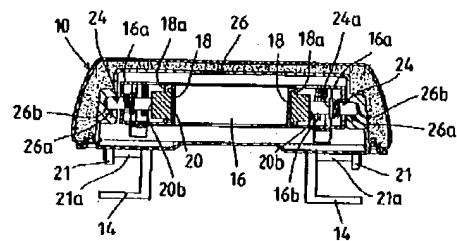
26a 係合部

28 係止部材

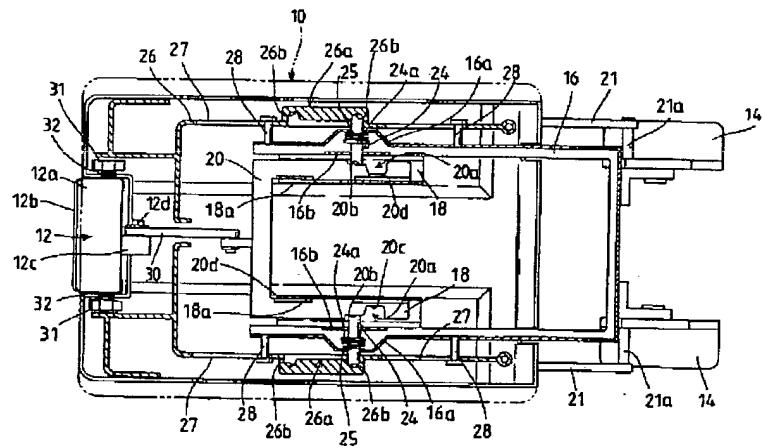
【図1】



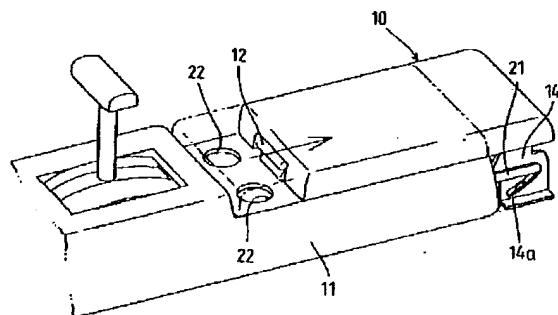
【図3】



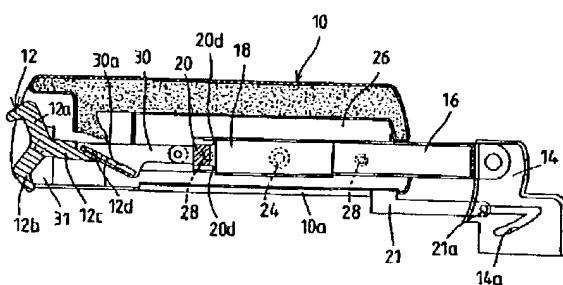
【図2】



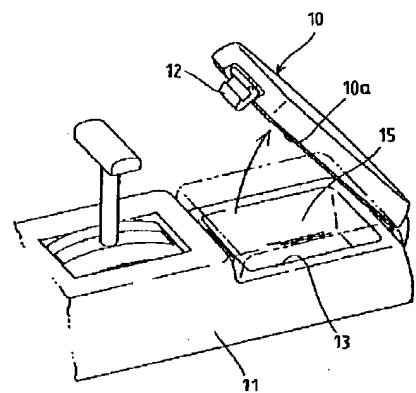
【図4】



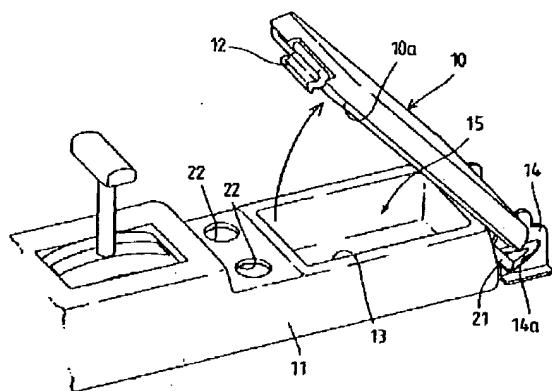
〔図6〕



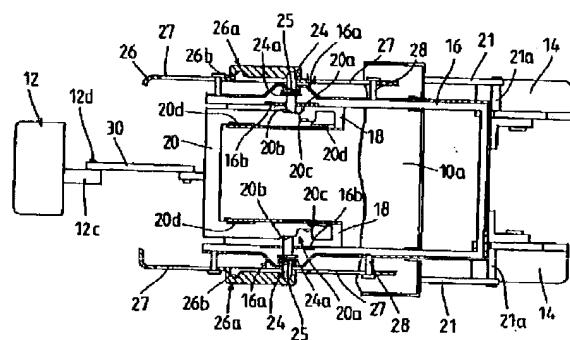
【図12】



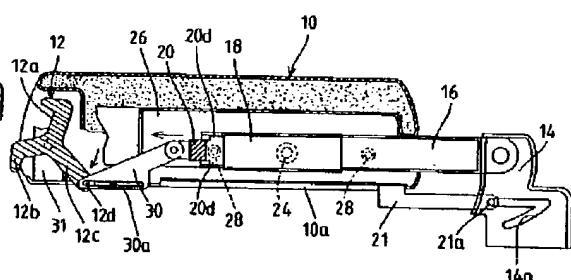
【図5】



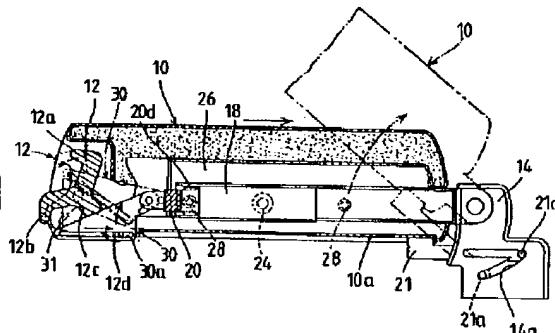
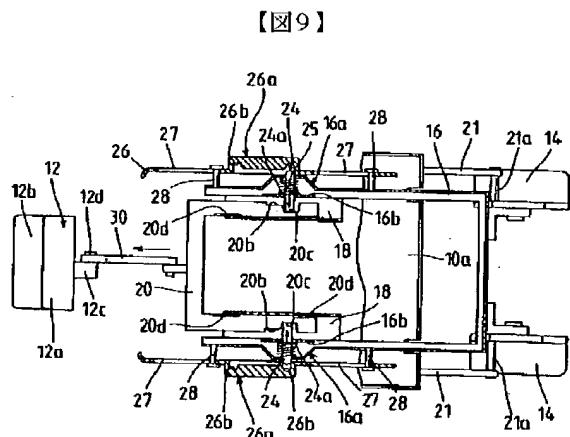
【図7】



【図8】



【図10】



【図11】

